

2.3 数列 $\{a_n\}$ を次のように定義するとき、その収束・発散を調べよ。

(i) $a_1 > 0, a_{n+1} = \frac{1}{2}(a_n^2 - 2a_n + 3), n = 1, 2, 3, \dots$

(解答) $a_{n+1} - 1 = \frac{1}{2}(a_n - 1)^2$ と変形できる。

(I) $a_1 = 1$ のとき

すべての $n \geq 1$ に対し、 $a_n = 1$ となるので、数列 $\{a_n\}$ は収束する。

(II) $a_1 \neq 1$ のとき

すべての $n \geq 1$ に対し、 $a_n \neq 1$ となるので、

$$\log_2 |a_{n+1} - 1| = 2 \log_2 |a_n - 1| - 1$$

$$\log_2 |a_{n+1} - 1| - 1 = 2(\log_2 |a_n - 1| - 1)$$

$$\log_2 |a_n - 1| - 1 = 2^{n-1}(\log_2 |a_1 - 1| - 1)$$

$$|a_n - 1| = 2^{2^{n-1}(\log_2 |a_1 - 1| - 1) + 1}$$

が成り立つ。よって、

$$\text{数列 } \{a_n\} \text{ が収束} \iff \log_2 |a_1 - 1| - 1 \leq 0 \quad (a_1 \neq 1)$$

$$\iff 0 < a_1 \leq 3 \quad (a_1 \neq 1)$$

(I), (II) より、 $0 < a_1 \leq 3$ ならば、数列 $\{a_n\}$ は収束、 $a_1 > 3$ ならば、数列 $\{a_n\}$ は発散する。

ポイント：本問題は、「 $a_n \neq 1$ ならば、 $a_{n+1} \neq 1$ 」となるので、

$a_1 \neq 1$ ならば、すべての $n \geq 1$ に対し、 $a_n \neq 1$

$c > 1, \lim_{n \rightarrow \infty} b_n = \infty, p, q$ は定数のとき、

$\lim_{n \rightarrow \infty} c^{p \cdot b_n + q}$ が有限値になる。 $\iff p \leq 0$

a_1 に条件が無い場合、 $\begin{cases} -1 \leq a_1 \leq 3 \text{ ならば、数列 } \{a_n\} \text{ は収束、} \\ a_1 < -1 \text{ または } a_1 > 3 \text{ ならば、数列 } \{a_n\} \text{ は発散} \end{cases}$

2.3 数列 $\{a_n\}$ を次のように定義するとき、その収束・発散を調べよ。

(ii) $a_1 > 0$, $a_{n+1} = a_1 + \frac{1}{a_n}$, $n = 1, 2, 3, \dots$

(解答) $a_{n+1} = a_1 + \frac{1}{a_n}$ …… ① の a_{n+1} , a_n に α を代入した式

$$\alpha = a_1 + \frac{1}{\alpha}$$

の解を求めると、

$$\alpha^2 - a_1\alpha - 1 = 0 \iff \alpha = \frac{a_1 \pm \sqrt{a_1^2 + 4}}{2}$$

である。 $p = \frac{a_1 - \sqrt{a_1^2 + 4}}{2}$, $q = \frac{a_1 + \sqrt{a_1^2 + 4}}{2}$ とおくと、

$$p = a_1 + \frac{1}{p} \dots\dots ②, \quad q = a_1 + \frac{1}{q} \dots\dots ③$$

が成り立つ。① - ②より、

$$a_{n+1} - p = \frac{1}{a_n} - \frac{1}{p} = -\frac{a_n - p}{pa_n}$$

が成り立ち、① - ③より、

$$a_{n+1} - q = \frac{1}{a_n} - \frac{1}{q} = -\frac{a_n - q}{qa_n}$$

が成り立つ。 $p < 0$ であり、すべての $n \geq 1$ に対し、 $a_n > 0$ となるので、
 $a_n - p \neq 0$ である。よって、

$$\begin{aligned} \frac{a_{n+1} - q}{a_{n+1} - p} &= \frac{p}{q} \cdot \frac{a_n - q}{a_n - p} \\ \frac{a_n - q}{a_n - p} &= \left(\frac{p}{q}\right)^{n-1} \cdot \frac{a_1 - q}{a_1 - p} \\ a_n &= \frac{q - p \cdot \left\{ \left(\frac{p}{q}\right)^{n-1} \cdot \frac{a_1 - q}{a_1 - p} \right\}}{1 - \left(\frac{p}{q}\right)^{n-1} \cdot \frac{a_1 - q}{a_1 - p}} \end{aligned}$$

となる。 $a_1 > 0$ より、 $\left|\frac{p}{q}\right| < 1$ となるので、 $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = q$ である。よって、数列 $\{a_n\}$ は、収束する。

ポイント： $\alpha = x + \frac{y}{\alpha}$ が、異なる2つの実数解 p, q をもつとき、

$a_{n+1} = x + \frac{y}{a_n}$ の形の漸化式を解くためには、

$$\frac{a_{n+1} - q}{a_{n+1} - p} = \frac{p}{q} \cdot \frac{a_n - q}{a_n - p}$$

を導いて、 $\frac{a_n - q}{a_n - p}$ を求めればよい。

$a_1 < 0$ の場合、 $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = p$ であり、数列 $\{a_n\}$ は、収束する。